

番組審議会

第7回 BS よしもと番組審議会

■開催年月日 : 2023年 7月13日(木)

■開催場所 : BS よしもと株式会社 会議室

■出席した委員(敬称略)7名中 6名出席 *あいうえお順

大原鶴美 (プロフェッショナル コミュニケーションスキル マスター・トレーナー)

川上和久 (麗澤大学教授)

品田英明 (元 味の素 AGF 株式会社代表取締役社長)

清水義次 (建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役) *リモート参加

竹中ナミ (ナミねえ) (社会福祉法人プロップ・ステーション理事長) *リモート参加

山田奈美香 (山田・尾崎法律事務所 弁護士)

■議題

1. 開会の辞 (審議委員長)
2. 開会の挨拶 (稲垣社長)
3. 番組審議委員の交代について
4. 編成関連のご報告 7月改編説明)
5. 視聴者からの反応の共有 (コールセンターレポートより)
6. 番組審議 : 対象番組:2023年5月28日放送
「ハイサイ!うた自慢まち自慢 2023 島ぜんぶでおーきな祭スペシャル」
7. 閉会の挨拶 (泉副社長)
8. 閉会の辞 (審議委員長)
9. 事務局からの連絡

川上審議委員長による開会の辞に続き、社長 稲垣より、7月改編を行い、よりメッセージ性を強めた番組ラインナップを強化したことを報告し、審議会をスタートした。

■審議の経過の概要等

1. 番組審議委員の交代について

令和5年6月29日付けで山田秀雄 副審議委員が退任となったため、

令和5年7月1日付けで山田奈美香審議委員が就任したことが、事務局より報告された。

また、後任の副審議委員長について、審議委員間での互選により大原鶴美審議委員が副審議委員長として選出された。

2. 編成関連の報告

続いて、専務取締役兼編成制作局長より、7月改編について以下3つのポイントを中心に説

明を行い確認された。

- ① 地方創生、一番組一起業を促進し、若者・ファミリー層を意識したオール・ターゲットとする従来の方針は維持しつつ、新たな制作手法の取り入れや、放送に纏わるコスト全般の見直しを継続的にを行い、収支バランスを適正化。
- ② 『育成』をテーマとし、今後2～3年にブレイクが見込まれる若手芸人を戦略的に大抜擢し、話題を創出。
- ③ チャンネル認知度の向上、視聴機会の拡大を目的としたYouTubeでの展開を前提とし、芸人と趣味、芸人の素顔など SNS 視聴との親和性、及び地方展開を視野にいたした番組企画を積極的に投入。

上記3つのポイントの具現化のため、以下の番組編成を実施した。

・開局より地方創生のシンボル番組として放送してきた「チーキーズ aGoGo!」と「ワシんところ・ポスト」を終了し、この2番組を統合したスタイルの4時間の生放送 情報報道バラエティ番組「キクテレミルラジ265」を新たに編成した。

この番組は、固定1カメラによる、テレビ経験の少ない若手芸人 MC を起用したラジオ DJ 風トーク番組で、総合演出も吉本タレントの YouTube 制作担当者であるグループ内制作会社の若手ディレクターを大抜擢した、全く新しいタイプの番組となっている。

また、番組内のコーナーとして、「市町村長うた自慢まち自慢」、「なにわ商店街ええもんみつけ隊」、住みます芸人の起業ドキュメンタリーVTRの紹介など、新番組においても吉本グループが展開する地方イベントを取り上げ、若手 MC とベテラン住みます芸人が、スマホ中継を結んで紹介するスタイルを踏襲した。また起業 VTR は、番組内に「小倉淳の47 フォーカス」という新しいニュースコーナーを設けて取り上げ、コメンテーターのジャーナリスト的な視点での意見を交えて紹介する。

・好評の新喜劇のラインナップの強化を図り、テレビ初放送となる祇園花月の吉本新喜劇「祇園花月 presents 吉本新喜劇」を木曜の21時にスタートした。新喜劇の後枠には、視聴量が見込まれる週末の通販番組を編成し、マネタイズも意識。

・地方での視聴拡大を視野に入れた YouTube 展開を前提とした番組の具現化に向け、桂文枝師匠、西川きよし師匠の新番組「西川きよしのコツコツ大冒険!」、「桂文枝の全国の首長さんに逢いたい!」を土曜の16時に立ち上げた他、吉本グループ内で広く企画募集を行い、芸人と趣味、芸人の素顔を意識した企画として「東西南北! よしもと麻雀リーグ」を日曜16時に、「裏切りマンキーコングのBS ゲームスタジオ」を木曜24時に、マネージャーが芸人に密着同行して芸人の素顔を紹介する「ニコイチ出張～社員がカメラ、まわしてみました～」を日曜12時に、大宮ラクーンよしもと劇場の楽屋話を紹介する企画として「囲碁将棋・ダ

イタクの『こんなん見るやついねえって！～言うな～』を日曜 21 時に、各新番組を編成。

・芸人自らが企画を持ち込んだ芸人発信型番組として、新着エンタメ・トーク番組「東野山里のインプット」を日曜 23 時に月 2 回のレギュラー番組として編成。
上記のような、芸人たちの趣味性を番組企画化し、地上波とは違った趣の番組編成を実現した結果、概ね好評なスタートを切ることができている状況を説明し、理解された

上記の説明に対し、一部の審議委員から、このタイミングでコストを見直した経緯と理由、番組内容への影響についての質問があり、これに対し、代表取締役 社長と専務取締役 編成制作局 局長より以下の説明を行った。

「開局より 1 年を経過したタイミングで事業計画の総括を行った結果、予算の適正化を実施するための準備期間が必要となり、このタイミングでの改編となった。一方で、コストは削減したものの、知名度に頼らない、趣味性やアイデア・企画力を活かした視聴者数の増加を見込める新番組を増やすことにより、全体の視聴数を増やし、ビジネスチャンスの拡大を目指した結果、好調な出足を切ることができている。」

上記の説明を行い、各審議委員に理解された。

2. 視聴者からの反応の共有（コールセンターレポートより）

考査部より、4 月～6 月中にコールセンターに寄せられた視聴者からの意見についてのサマリーを報告し、全審議委員に理解された。

3. 番組審議

対象番組 2023 年 5 月 28 日放送

「ハイサイ！うた自慢まち自慢 2023 島ぜんぶでおーきな祭スペシャル」

初めに、制作を担当した地域推進・事業局 局長から番組概要についての説明を行い、続いて審議委員長による進行により、各審議委員から寄せられた質問について、地域推進・事業局 局長が応答する形式で番組審議を進行した。

各審議委員からは、以下のような意見が寄せられた。

・地方創生のテーマにふさわしい企画で、地域の特性や、予選から本選の様子も紹介された構成がよく楽しい番組だった。本選へ勝ち上がる基準の説明が最初にあると、より良かったのではないか

・一部 MC 陣の突っ込み具合が気になる箇所もあったものの、西川きよし師匠の安定感のある司会進行ぶりが大変素晴らしく、楽しめた。

・大崎会長の退任に伴い、今後の鐘を叩く演出や放送予定はどうなるのかが懸念されるが、地元の盛り上がりも実感できているので、今後も是非継続して欲しい。

・沖縄の方言、文化について理解できない部分があり、字幕や説明テロップで情報を補足する対応があると、より理解しやすく楽しめたのではないか。

・番組プレゼントや、SNS の活用による宣伝プロモーションを試みて、更なる視聴機会を増やす試みを検討してはどうか。

これらの意見に対し、地域推進・事業局 局長より、以下のような回答を行い、理解された。

・今後の予定として、全国大会を企画できないか構想中である。鐘をつく演出の後継者についてどうするか、また歌唱力だけではなく、総合的な評価を基に予選を勝ち抜く座組であるため、審査基準の説明については、今後どのように放送していくか、次回以降の課題として検討してゆく。

また、新番組「キクテレミルラジ265」内のコーナーを予選と捉え、全国1,741市町村長に対して出演交渉を進行中である。

・方言やその土地の文化についての丁寧な説明を加えるよう、視聴者目線で検討してゆく。

7.閉会の挨拶

最後に事務局より次回の開催時期を確認後、泉副社長により、7月改編後の経過が好調であるため、この方向で邁進したい旨の閉会の挨拶が述べられ、続いて審議委員長による閉会の辞が述べられ、審議会が終了となった。

■現在のBSよしもと審議会委員（敬称略）

※2023年7月現在

川上和久（委員長／麗澤大学教授）

大原鶴美（副委員長／プロフェッショナル コミュニケーションスキル マスター・トレーナー）

久保博（一般財団法人 日本スポーツ推進機構（NSPO）理事）

品田英明（元 味の素 AGF 株式会社代表取締役社長）

清水義次（建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）

竹中ナミ（ナミねえ）（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）

山田奈美香（山田・尾崎法律事務所 弁護士）

以上